

# 文化財ニュース いわき

第 65 号

平成 22 年 10 月 30 日

財団法人いわき市教育文化事業団  
福島県いわき市常磐藤原町手這50-1  
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (43) 0391

## 泉第三土地区画整理事業埋蔵文化財発掘調査

—平成 22 年度 泉町C遺跡の成果—

泉町C遺跡は、福島県いわき市泉町<sup>たきじり</sup>滝尻字泉町地内にあります。JR常磐線泉駅より南東方向に直線で700mに位置します。発掘調査は、平成4年(1992)から断続的に行われています。これまでの調査では、弥生時代の<sup>はくつちようさ</sup>竪穴住居跡や<sup>やよいじだい たてあなじゆうきよあと</sup>墓跡(土器棺墓)、古墳時代の<sup>しゅうらくあと</sup>集落跡、近世の農業用水路跡(堀江跡)などが発見されています。

今回の調査では、<sup>どこう</sup>竪穴住居跡や<sup>みぞあと</sup>土坑のほか溝跡や小穴などが発見されています。多くの遺構は、いっしょに発見された土器などの特徴から古墳時代に位置付けられることがわかりました。古墳時代の集落跡は、今回の調査区より南東方向にも広がっているようです。

今後、泉町C遺跡周辺の発掘調査が進めば、1300年前の泉町のようなすが、さらに明らかになるものと期待されます。



泉町C遺跡発掘調査のようす

とじておきましょう。



表土の下 40cmより発見されたさまざまな遺構（標高約 3.2～3.7m）



8号竪穴住居跡検出のようす



同調査のようす

### 30 畳の家と 10 畳の家

今回の発掘調査では竪穴住居跡 8 棟、土坑 41 基、溝跡 7 条のほか多数の小穴が発見されました。このうち、2号・8号竪穴住居跡は、一辺の長さ約 7 m を測ります。面積は、約 30 畳の広さになります。今回の調査では、大きなものです。4号・6号竪穴住居跡は、一辺の長さが約 4 m を測り、面積は約 10 畳になります。また、1号・2号竪穴住居跡は、平成 17 年度に行われた発掘調査によって発見された竪穴住居跡の東側にあたります。2 棟の竪穴住居跡全体像が、今回の調査によって明らかになりました。

### 断面形が凹レンズ状と V 字状の溝跡

7 条の溝跡のうち 1号・3号・5号・  
(3 ページに続く)

とじておきましょう。



4号竪穴住居跡と1号溝跡（中央）

7号溝跡は、最大幅で1.5mを測ります。  
1号・3号・7号溝跡は、断面形が凹レンズ状をしていますが、5号溝跡はV字状に底面が非常に狭くなるのが特徴です。  
1号・3号・7号溝跡は、溝跡というよりは道として使われていたのかも知れません。5号溝跡は土地を分ける（区画溝）役割をもっていたとも考えられます。

#### 重なり合っている遺構

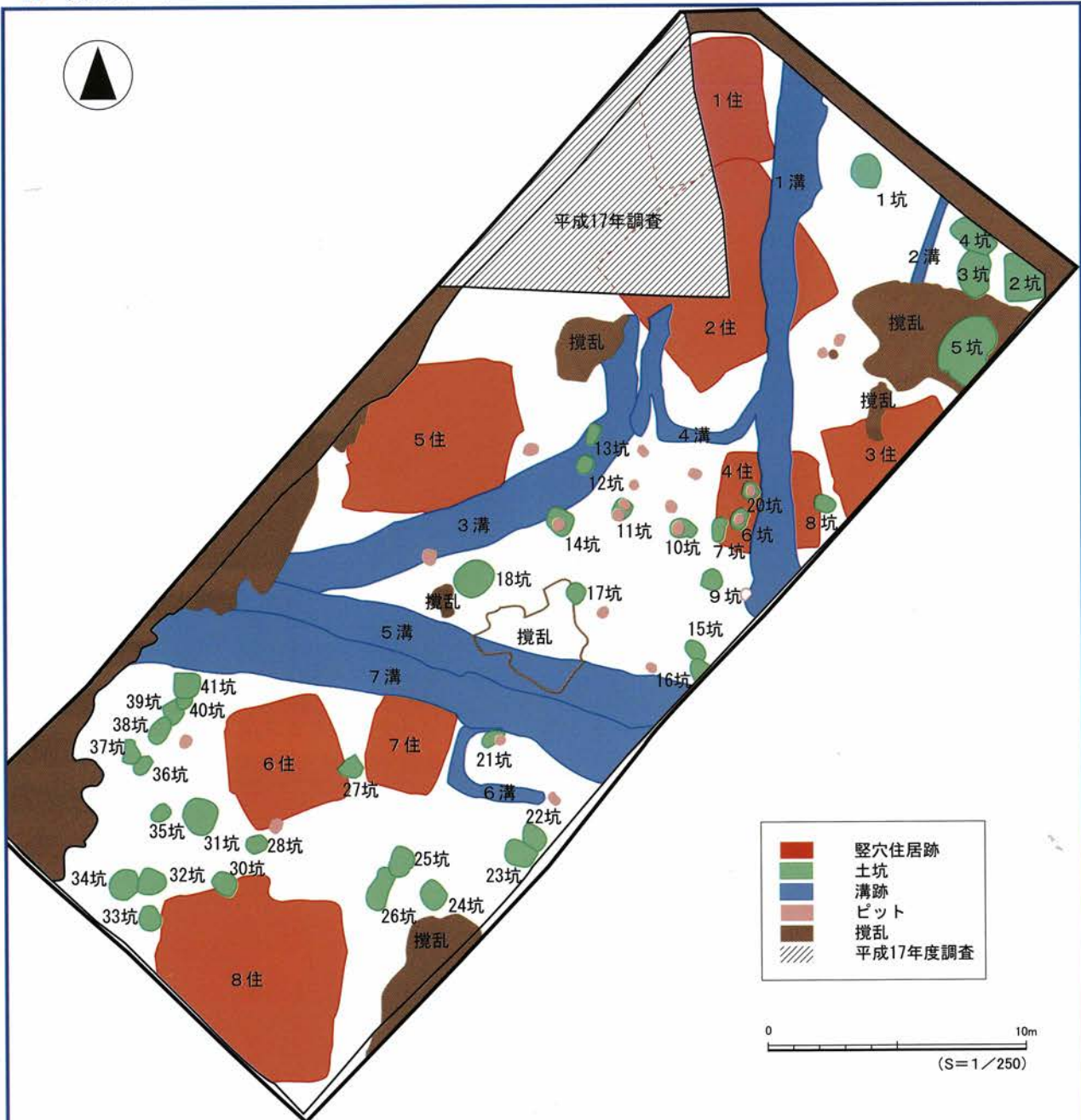
3ページ上の写真を見ると、4号竪穴住居跡の上を1号溝跡が住居跡を壊して通っていたのがわかります。このことから溝跡が住居跡より新しいことがわかりました。このような例は、今回の調査でも多く見られました。遺構の新旧や時期を考える上で、大きな手がかりとなります。



16号土坑より重なり合って発見された土器



同 横から見たところ



泉町C遺跡（16区）遺構配置図

とじておきましょう。

◆トピックス

梶森遺跡（伊達郡川俣町飯坂字北堀坂・梶森地内）

いわき市考古資料館を国道49号から小野町・田村市・二本松市を經由して、北上すること105km、約2時間で梶森遺跡に着きます。当事業団では、川俣町から依頼を受けて、県道原町川俣線の道路改良事業に伴う発掘調査を、8月中旬から開始しており、12月中旬には終わる予定です。調査区内は標高445～450mを測り、いわき地方では三和町下市萱に所在する竹ノ内遺跡（沢渡小学校裏校庭）とほぼ同じです。

現在までに、縄文時代の竪穴住居跡が4棟、大小の穴（土坑）が11基、そして中央を流れる大きな沢が発見されています。竪穴住居跡は縄文時代中期末、後期の頃のものです。